

『やなやつ改造計画』を読んで

ぼくは光也の「しぶとさ」がカッコイイと思いました。

なぜなら、とちゅうで何度もあきらめそうになっていたけど、

あきらめずにチャレンジを続けていたからです。

ぼくも、一回くらい失敗してもチャレンジを続けていきたいです。

(みつひこ)

『この手はいつか』を読んで

真潮は、気に入らないことが起こると、暴力をふるってしまうようになりました。しかし、真潮は、家で生き物を買えない分、学校で買っている金魚をととても大切に育てています。だが、その金魚に、消しかすを食べさせている人がいました。そのことにカッとなって、つい暴力をふるってしまいました。そして、夏休みは、おじいちゃんの家ですごすことになって、しばらく早川に電話ができませんでした。

ある日、真潮は早川に電話をしました。学校でいろいろなトラブルがあったことを話しました。

早川は、そのことを知っていました。

知っていたけれど、早川は、

「でも、べつにいいやん、そんなの。なんか理由があったんやろ？時田くんは、理由もないのに暴力なんてふるわん。友だちやけんわかるもん。」

わたしは、真潮のように、小さな生き物でも大切に育てなければいけないと思いました。

しかし、金魚を守りたいというやさしさで、

真潮は、暴力をふるってしまったのです。

早川の言葉から、気が合わない人でも、しっかりと自分のことを見てくれている人がいるのだなと思いました。これからは、一つ一つの行動に責任をもって行動したいです。

(みこと)

『思いがけず、朝子ちゃん』を読んで

みんなそれぞれの個性を持っていて、
みんな朝子ちゃんにゆる～くつながっていて、
一つ一つの話でも、関係性を感じました。
一番強く感じたのは、「みんな主人公」ということです。
話によって中心の人物が変わるけど、必ず朝子ちゃんが
出てくるのが、この本の「楽しいところ」です。
シリーズ化を楽しみにしています。

(みつひこ)

『アリーチェと魔法の書』を読んで

アリーチェ、この少女の家には魔法使いがやってきます。
なぜって？みんな本を読みにくるのです。そう、魔法の書を。
アリーチェの家はその本を大切に保管する仕事をしています。

ある日、アリーチェはその仕事を受けつぎます。

しかし、一週間も本を保管できなかつたのです。

さぁ大変。代々受けついできた本をこわしてしまいました。

アリーチェは本を元にもどせるのか。もどせないのか。

それとも...？ 気になる人はぜひ読んでみてください。

(さくら)



『Q世代塾の問題児たち』を読んで

この本は、そらおという女の子が、Q世代塾に通い、
差別のことについて考える話です。

この本を読んで、自分が思っていることと、他の人が思っていることが
違っていいんだと思いました。

登場人物の意見が、私には思いつかないものばかりでおもしろかったです。

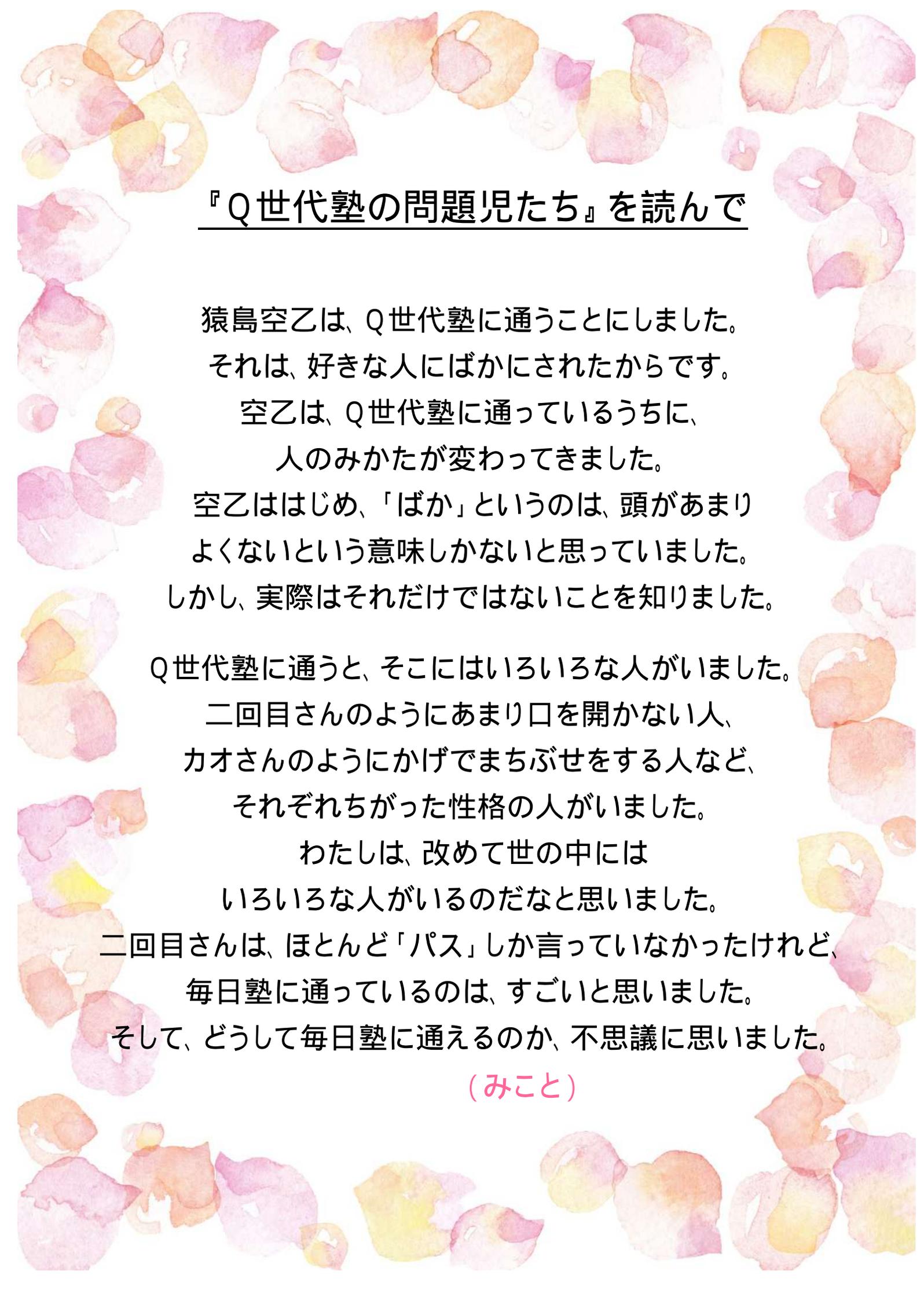
(えみ)

『Q世代塾の問題児たち』を読んで

「ばか」この言葉は色々な意味がこめられています。
例えば「単純に頭が悪い」や「差別やいじめをする」、
「世の中のことを考えない」他にもたくさんありますが、
あなたはどんな「ばか」を想像しますか？

私がとくに心にささったのは「差別やいじめをする」この考えです。
こんなひどいことをするのは心の「ばか」だと思います。
なぜかというと私は学校でいじめを経験したことがあったからです。
本当の「ばか」は人によって変わります。
だから私はあなたに「ばか」という意味を考えてほしいのです。

(さくら)



『Q世代塾の問題児たち』を読んで

猿島空乙は、Q世代塾に通うことにしました。

それは、好きな人にばかにされたからです。

空乙は、Q世代塾に通っているうちに、

人のみかたが変わってきました。

空乙ははじめ、「ばか」というのは、頭があまり

よくないという意味しかないと思っていました。

しかし、実際はそれだけではないことを知りました。

Q世代塾に通うと、そこにはいろいろな人がいました。

二回目さんのようにあまり口を開かない人、

カオさんのようにかげでまちぶせをする人など、

それぞれちがった性格の人がいました。

わたしは、改めて世の中には

いろいろな人がいるのだなと思いました。

二回目さんは、ほとんど「パス」しか言っていなかったけれど、

毎日塾に通っているのは、すごいと思いました。

そして、どうして毎日塾に通えるのか、不思議に思いました。

(みこと)

『ミクとオレらの秘密基地』を読んで

私は、ミクが芝やんと岩ちゃんと友達になっていくのが
おもしろかったです。最初ミクは表情が変わらなくて、
ぜんぜん笑わなかったのに、少しずつ
打ちとけていくところがミクの成長を感じました。

(せな)



『ミクとオレらの秘密基地』を読んで

この本の主人公は、「ミク」です。
その女の子は、ニコリとも笑わないのです。
そのミクに笑ってほしいと思い、
岩ちゃんと芝ちゃんという男の子が
笑わかせようとチャレンジするお話です。

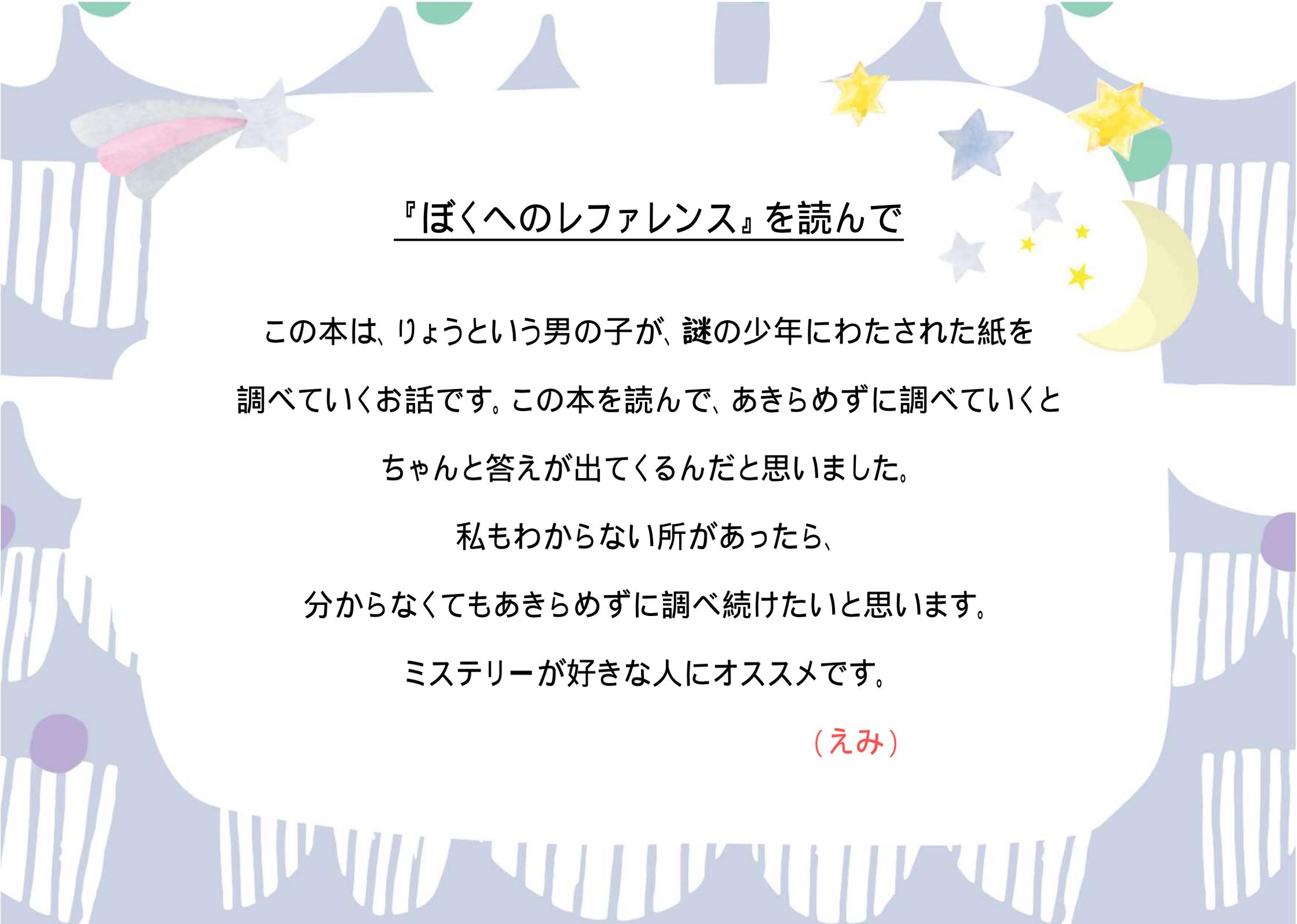
わたしが二人の会話で心に残った言葉は、
「オレらで、そいつ笑わせてやらん?、」
「あー、なるほど!それいいかもしれん。

そしたらさ、オレらすごくね?なんならヒーローやない?」
のところ。ミクを笑わせたいという気持ちで、
わたしは二人がとても親切でやさしい心を持った人だと思いました。

わたしも、人のことを考えて行動したいです。

結局、オレらは、ミクを笑わかすことができたのか...?

(みこと)



『ぼくへのレファレンス』を読んで

この本は、りょうという男の子が、謎の少年にわたされた紙を調べていくお話です。この本を読んで、あきらめずに調べていくとちゃんと答えが出てくるんだと思いました。

私もわからない所があったら、
分からなくてもあきらめずに調べ続けたいと思います。

ミステリーが好きな人にオススメです。

(えみ)

『そして砂漠は消える』を読んで

私はこの話で、最初、最後と時代がちがうことで
話の内容が変わるように感じます。この話を読んだ後に、
今ある木や山、森はどんなにありがたいのか分かりました。

(せな)

『そして砂漠は消える』を読んで

サマアの変わりようにすごくおどろきました。

なにも知らないのに、冒険に出ていったサマア。

「おまえにはその力がある。わたしにできなかったことも
おまえにはできるだろう。」この言葉から、長者ばあさまも

同じことをしようとしたのだと思います。

ぼくは砂漠のことは知らないけれど、

かんきょうを大切にしていきたいです。

(みつひこ)

『読書感想文が終わらない!』を読んで

読書感想文について思っていることは、人によって全然ちがうなと思いました。

たとえば、颯佑は書感想文を非効率的だと考えているし、
フミちゃんは、自分の心を見つめる時間だと思っていました。

ぼくは、考えたことがなかったです。

読書感想文を書きながら見つけていきたいです

(みつひこ)

『ぼくたちの卒業写真』を読んで

このお話を読んで始めて、
写真に情熱をかけている人がいることを知りました。
主人公は写真をとるごとに、成長したり仲間も増えていったので、
そういうところもいい、面白いなと思いました。

(たいし)

『てまりのナゾほどこき帳』を読んで

「知らないことを知ることは、そこまでと思っていた水平線が
先まで広がるということだ。」この文章を読んで
私は心の中で何かすごい変化が occurred。

言葉ではうまく説明できないのですが、この文が私の水平線を
広げてくれた気がします。その次の文はこう書いてあります。
「それは世界が広がるということだ。我々にはまだ知らないことが
たくさんある。そう考えるとなんだか胸が躍るじゃないか？」と。

この本を一度、読んでみてください。

きっとあなたも同じことを思います。

(さくら)

『てまりのナゾほどこき帳』を読んで

私はこの話の中に出てくる春駒姉さまが好きです。
なぜなら、しゃべり方がかわいくて、とてもやさしいからです。
春駒姉さまのおどりも、とてもすてきだと思います。

(せな)



『オーサム!国語塾』を読んで

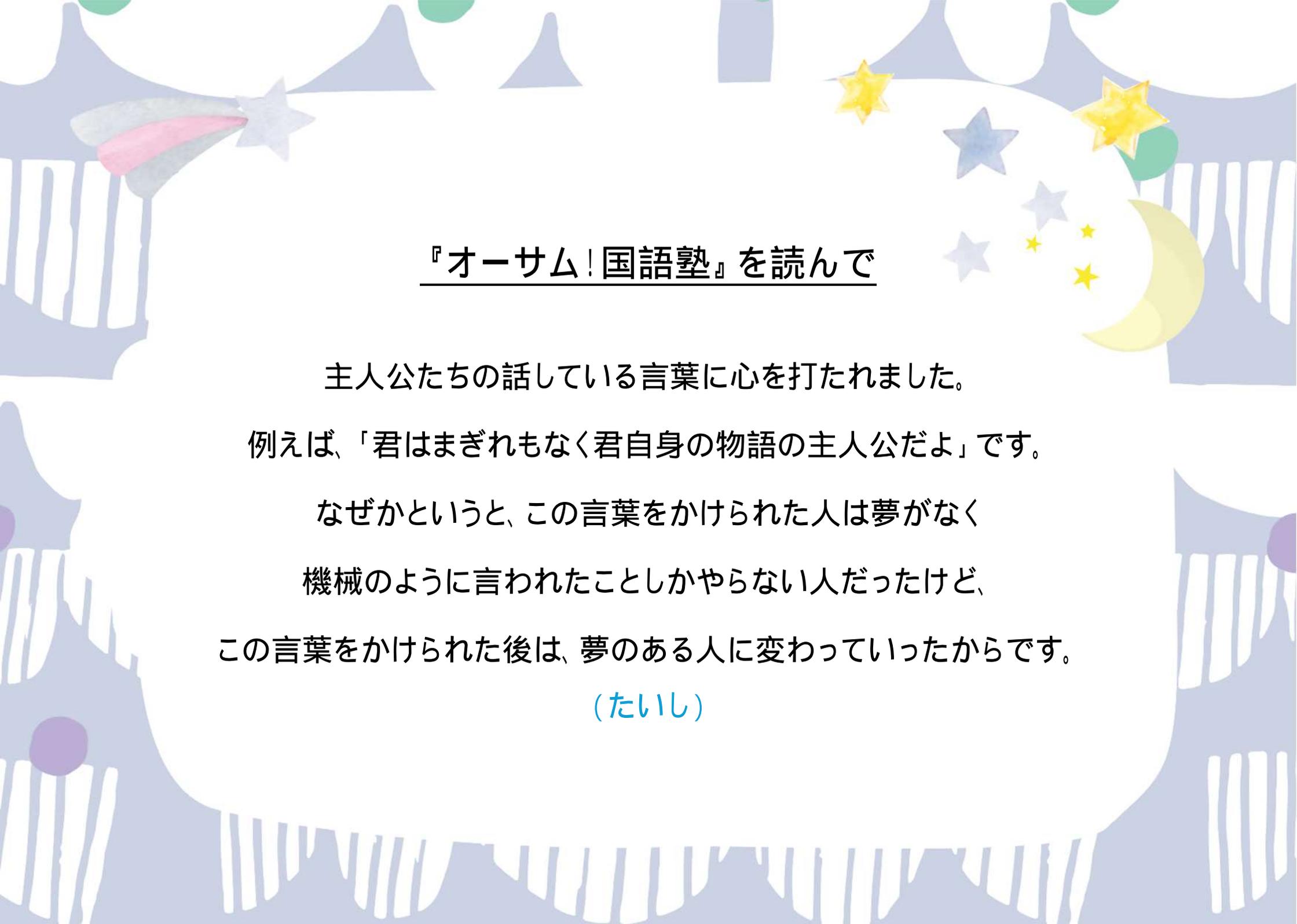
この本は、今井先生の国語塾のお話です。

この塾には、国語が苦手な子たちが今井先生に教えてもらっています。

私は、説明文を書くのが苦手です。この本は説明文の仕組みがわかりやすく書かれていて、私も説明文を上手に書けそう!と思いました。

国語が苦手な人におすすめです。

(えみ)



『オーサム!国語塾』を読んで

主人公たちの話している言葉に心を打たれました。

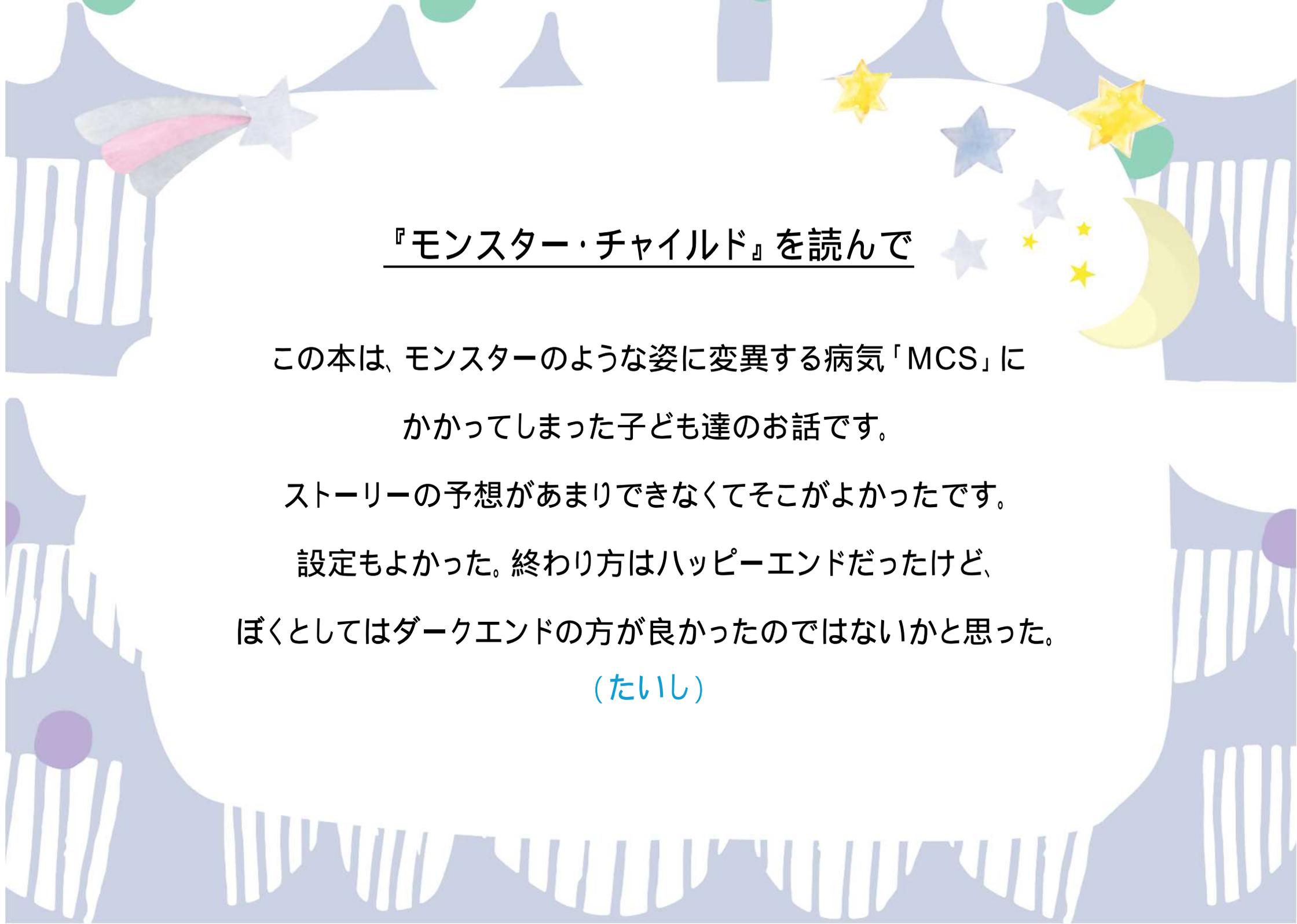
例えば、「君はまぎれもなく君自身の物語の主人公だよ」です。

なぜかというと、この言葉をかけられた人は夢がなく

機械のように言われたことしかやらない人だったけど、

この言葉をかけられた後は、夢のある人になっていったからです。

(たいし)



『モンスター・チャイルド』を読んで

この本は、モンスターのような姿に変異する病気「MCS」にかかってしまった子ども達のお話です。

ストーリーの予想があまりできなくてそこがよかったです。

設定もよかった。終わり方はハッピーエンドだったけど、ぼくとしてはダークエンドの方が良かったのではないかと思った。

(たいし)

『モンスター・チャイルド』を読んで

最初は怖い話かなあと思って読んでいました。

でもモンスターチャイルドと呼ばれる人達は悪いことをしていないのに姿が変わることで悪いと決めつけている人がいる事が不思議でした。

その人達の方がいじめをしているから悪いと思いました。

本当の事を知らないのにその事を怖がっているのは

コロナの時みたいだなと思いました。

(あおい)

『図書だよりとひみつのノート』を読んで

この本は、主人公の女の子が分りやすい図書だよりを
仲間と一緒に作っていく話です。

仲間と一緒に作っていくことでより良いデザインができるんだと思いました。
これからは、クラスで協力して物を作る時には、相手の意見を受け入れて、
みんながいいと思う作品を作りたいです。

本好きの人はもちろん、友達関係に悩んでいる人や
図書委員の人にオススメです。

(えみ)

『読書会を魔女といっしょにやってみたら』を読んで

この本は、オープンスペース黒猫で、
本好きな5人がブックスペースを作っていく話です。
本を通して、色々な人と話し合い、ひとつの物を作るのは、
友達と仲良くするきっかけになるんだなと思いました。

私も、挑戦してみたいです。

(えみ)

『チング!』を読んで

このお話は幹太という少年がチチ(父)とともに
韓国に行くというお話です。

チングというのは親友のような意味なのですが、
幹太はこの旅行を通してたくさんのチングができたり、
苦手なものをこくふくしたりします。
その部分がいいなと思いました。

(たいし)

『おれたちはギロンする』を読んで

この本は、ようたとめいが、身近なことを通してギロンをしていく話です。

この本を読んで知ったことは、

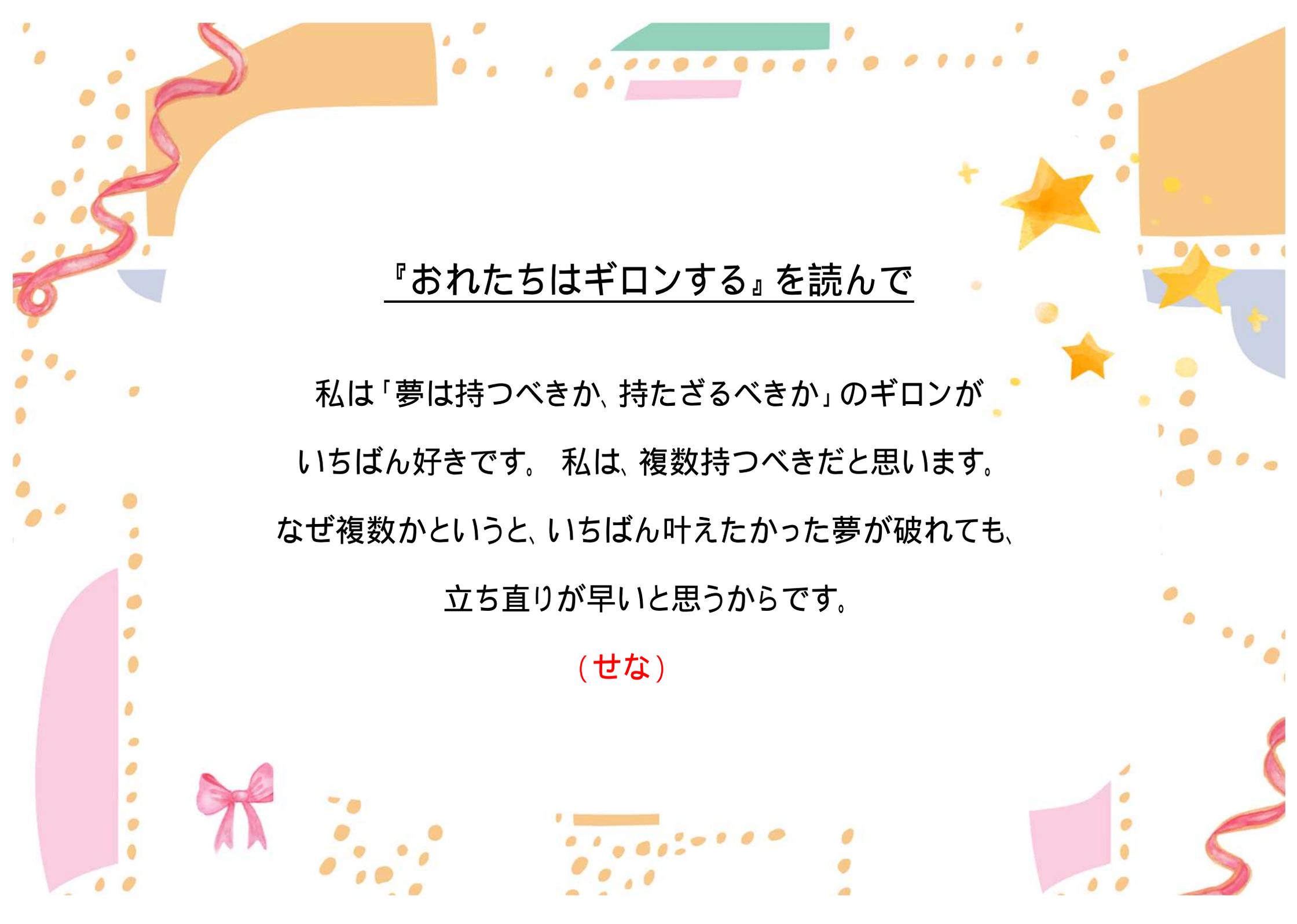
ギロンは、ケンカのようなものだとは最初は思ったけど、

どんどん読んでいくうちに、

ギロンは共に生きるために必要なものだとなりました。

この本を読むと、自分もギロンに参加しているような気持ちになります。

(えみ)



『おれたちはギロンする』を読んで

私は「夢は持つべきか、持たざるべきか」のギロンが
いちばん好きです。私は、複数持つべきだと思います。
なぜ複数かというと、いちばん叶えたかった夢が破れても、
立ち直りが早いと思うからです。

(せな)